

編集後記

「自分のやりたいことってなんだろう」
 今回ふたつの団体にインタビューをさせていただき、とにかく自分たちがやりたいことに丁寧に向き合っている姿を見ました。冒頭の「自分のやりたいこと」、これが簡単なようで難しい。特に大人になればなるほど難しい。小さな頃から、なにか人と違うことをすると「みんなはそんなことしてないでしょ」と注意され、大きな夢を抱けばその道のりの険しさを説明される。それが大人達の愛だとは理解しつつも、その言葉面だけを自分に取り込み「あれをしたい」という気持ちは無意識のうちに心の奥へとしまい込む。テレビやネットや人の声が更に自分を占領し、自分の声にどれだけ耳を傾けて来ただろうと考えさせられました。

今回インタビューをさせていただいた方たちは純粋に楽しそうでした。自分の五感に素直で、そしてこのまちが大好きだと話していました。五感を駆使しなくても生きていくことのできるこの時代では、五感をフルに使うことが“本当の自分”を知るツールになると思います。そしてこの土地の木々が、海が、一万年続く歴史が、私たちの五感を精鋭させてくれているのではないのでしょうか。

人生の中で様々な選択をしながら奇跡みたいな確率でこの土地に共に生きる人たちが。そう考えると色々な人が愛おしく感じます。

「やりたいことなー？」と、今夜は布団の温もりを肌で感じ、ブツブツと自分に聞いてみることにします。
 (N)

— Special Thanks! —

あかつきダイニング
 A マート
 川北郵便局
 郷土料理武田
 ぎんれい精肉店
 くるくる2
 合田商店

後藤商店書店部
 標津漁協直売所
 標津郵便局
 セイコーマートこんどう標津店
 セイコーマート標津まるよし店
 セブンイレブン標津町店
 大地みらい信用金庫標津支店

ファミリーレストランいしばし
 福住
 ホーマックニコット
 Kuni OFFICE
 narawara records.
 しべつ Amie
 *五十音順・敬称略

Follow us on Facebook & Instagram & Twitter !!!

記事に収まらなかったこぼれ話やインタビューの様子などを更新！検索してみてくださいね。



Facebook



Instagram



Twitter

— Information —

しべつろーかるふりーべーぱー
sipeto №3
 Autumn 2018



2018年10月19日発行
 発行人 Ynet.
 発行所 〒086-1632
 北海道標津郡標津町北2条西1丁目1番3号
 標津町役場企画政策課内
 TEL.0153-82-2131
 FAX.0153-82-3011

◎次回発行は2019年2月の予定です。



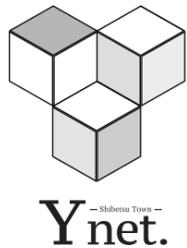
しべつろーかるふりーべーぱー

sipeto

Shibetsu Civic Pride Project by Ynet.

[CONTENTS]

発刊にあたって / 活動紹介
 インタビュー - 06 narawara records. - 07 しべつ Amie
 編集後記 / and more



発刊にあたって

皆さんこんにちは。本紙を手にとっていただきありがとうございます。
 私たち「Ynet.」は町民活動の活性化、町内ネットワークの拡大・構築を目指し組織された役場職員で構成するグループです。標津町には様々なまちづくりに関係する活動をしている団体や個人の方がいて、実際にお会いしてみると、標津町にはこんなにも味わい深い人たちがいるね、と気づかされました。本紙の表題「sipeto(シペト)」は標津の語源になったとされるアイヌ語「シペツ」と日本語の「人(ト・to)」を掛け合わせた造語で、標津に住む活動的な方々をたくさんの方に知っていただきたく名付けました。

sipeto を通じて人の活動に込められた『想い』に触れて、知って、共感して、共に活動する方が一人でも増えることになればうれしく思います。

Ynet.

Introduction of this "sipeto"

— 今回インタビューさせていただいた方たちの活動紹介 —

--- narawara records. ---

“音楽”と“標津町”が大好きなメンバーが集まり音楽をベースに町内で活動中。ジャンル、スタイルなどの枠に捉われず、自由に純粋に好きなことを表現している。主な活動はスナック チェリーで不定期に開催している music party 【OPT】。「この町で、音楽で。」をコンセプトに、様々な活動の場を広げている。



8月18日(土)に開催された【OPT】に行き来ました。音楽が好きで楽しそうに踊ったり、ひとりでゆっくり体を揺らしながらお酒を飲んだり、ソファに座って空気感を味わったり。若者もおじさんやおばさんたちも一緒に空間にいて、それぞれの過ごし方がある、それが許される感じが妙に心地よい。お店の人も、来ている人たちが楽しんでいる姿を見て嬉しそう。多様で自由。まちの中にこんな場所がもっと増えるといいなと思いました。

:: 今後の活動予定 ::

【OPT】
 日時》2018.10.27 SAT.
 OPEN 20:00
 会場》スナックチェリー
 ナラレコ facebook

【中沢ノブヨシ北海道ツアー in 標津】

日時》2018.11.7 WED.
 開場 18:00
 開演 19:00
 会場》喫茶リーフ
 中沢ノブヨシ オフィシャルサイト

--- しべつ Amie ---

お祭りやイベントで、サケのすり身でできている鮭コロッケやかまぼこなどを提供。標津海産の魚介類を多くの人に食べてもらいたいと日々商品開発を重ね、町外、道外でもPRしている。



:: 今後の活動予定 ::

【標津文化祭】
 日時》2018.11.3 SAT.
 9:00~
 場所》あすばる
 【加工品まつり】
 日にち》2018.12月上旬予定
 ※詳細は未定



しべつ Amie facebook



魚食が減っていると叫ばれて久しい昨今、イベントで見かけるしべつ Amie の商品には、手軽に美味しく魚を食べられるようにという工夫がいっぱい詰まっているようだ。看板商品の鮭コロッケは、魚の臭みを感じず旨みが前面に出てくる味付け。冷めてもおいしいから、お土産にも、夕飯のおかずにもなる。どんな工夫なのか、食べている方には想像がつかないけれど、消費者の「こうだったらいいな」というわがままな気持ち(臭みのない魚なんて!)に、歩み寄ってくれているような、懐の深さがこの味を作っているように思う。

Touch,
 Know,
 Sympathize.

Interview

一団体の発足はいつですか？

枝里子) 2015年の9月に最初の音楽イベント「OPT (オプト)」をやるという話になって。最初はメンバー5人でスタートし、現在は全部で7人で活動しています。

一活動を始める最初のきっかけは？

鈴木) 最初のOPTより更に2~3年前から仲の良いメンバーで標津で音楽で何かやりたいよねって話をずっとしていたんです。メンバーそれぞれ他の町でDJ活動はして。他の地域、近隣でもよく音楽やDJのイベントがあって、でも標津にはそれがなかったので自分達が歳をとっても音楽と生活したいよね、その為には今から標津でやらなくとねと話し、ようやく動き出したのが2015年9月のOPT。そのタイミングで興味がありそうなメンバーに声をかけました。

一OPTはイベント名ですか？

鈴木) そうですね。OPTは「オピッタ」っていうアイヌ語が元になっていて、意味は「みんな」とか「全て」とかそういう意味。それと「opt(option)=選ぶ」

という意味も含んでいて、自分たちはそれぞれ皆、たくさんの選択をしてこの町に共に住んでいるという意味を含めての「OPT」。で、OPTは夜の部のイベント名にして、団体名は「narawara records。」にしようって途中からなりました。

一現在の活動はスナックチェリーでやっているOPTが主な活動？

悠介) それがメインで、その他、この前開催したおひさままつりのファッションショーのときのBGMを担当したり。結婚式のBGMをやったり。
大桃) なんかBGMがかけられると聞きつければ、機材を持って行ってやります。
悠介) 去年はビア☆ジンでもやらせてもらいました。

一日々の活動で大切にしていることとかありますか？

鈴木) メンバーの負担を軽減するために監督制を設けています。
枝里子) 監督制っていうのは、回によってメンバーの中から監督を決めるんです。毎回監督が変わり、その回の企画、構成からポスター作り、当日の会場

レイアウトやタイムスケジュールまで全てを監督が指揮するシステムです。

大桃) 家庭や仕事がある中での活動なので、続けていくために負担の軽減化は意識してます。監督によって色が変わっていくのも良いと思っています。

悠介) リーダー(代表)がいなくて毎回変わるって組織の形もありなんだなって思った。

一標津の町に感じることは？

悠介) OPTを始めたときに、小さなこの町には“無い”“出来ない”って思っていることが多いけど、実はやってなかっただけじゃないだろうかって思った。いちばん最初に行動を起こすのは怖いけど、実際にやってみたら人数も増えて、なんだ、こういうジャンルの人たちも潜在的に居るじゃんっていう確認作業にもなりました。小さい町だからと見くびっていたのは自分たちのほうだったかもしれないなと思っています。自分達の活動を見て他の人も「あーやればできるんだな」って思ってくれるかも。そういう思いもあって始めたところもあります。
枝里子) だって最初は3人だったDJが今は7人。



写真：左から鈴木さん(漁師)、土谷悠介さん(運送業)、大桃さん(酪農家)、土谷枝里子さん(主婦)

06 narawara records.



歳を重ねても音楽をとなりに。

一では標津町はやりたいことがやれる町？

大桃) やれると思うし、私もやってみようかなっていう人もどんどん増えてきた。だから線を引いたり、敷居を低くして、周りもそういった行動に寛容であればいいんじゃないかなって思います。ただ、やるからには結果を出さなくてはならないっていうように一生懸命頑張ってしまうこともあるけど、まずはやってみて、どうやったら自分たちで続けられるのかっていう視点を重視するのもありだと思う。やってみたら助けてくれる人も意外といます。
枝里子) これがどこかの組織に作られた団体だったらなかなかそうは行かないって言うのもあります。

自分たちがやりたい自分たちで始めたというのは大きいと思います。
鈴木) やりたいことはやれるっていう前提がまずないと踏み出せないから、まずやれるんだっていう。あとどうやるかっていうのは次の段階の話。
悠介) 普通に生活していたら意外と自分がやりたいことって表に出にくいですよ。仕事柄とか。普段の生活の中で自分を出せる場所があれば、例えば標津の人にとってOPTがそういう場所であれば嬉しい。だから本当は10代とかも来てほしいので、屋の部をやりたいんだよね、ワークショップとか。

一今後の課題はありますか？

枝里子) “DJ”と“クラブ”とかに悪いイメージを持っている人はやっぱりいる。それらのイメージを払拭できるような活動が出来たら良いなと思います。純粋に音楽のチカラや魅力を表現できるような。
大桃) 表現の方法は何だって良いんだと思うけど自分達はたまたま音楽が好きで音楽で表現しているという団体。音楽がこの町のひとつの遊び場所や癒される時間になれば嬉しい。選択肢のひとつとして「今日ス

ナックにする？宅飲みにする？OPTにする？」みたいな。特別なものじゃなくて、日常の側にあるような。
悠介) そのために場所が無いことは困っています。喫茶店やカフェ、フリースペースみたいなものももっとあば活動の場が広がる。他の町ではフリースペースは増えて来ているし。

一今後の展望は？

枝里子) さっきも出ましたが、子育て世代や学生が参加できるよう屋の部も検討しています。それと、レコードやDJ機材に実際に触れてもらえるようなワークショップも。他団体との協力した活動も予定しています。
鈴木) 将来的に野外イベントも開催したいと考えています。“標津で野外イベント”。予てからの夢です。資金面や場所の確保など課題はありますが、実現させたいです。
大桃) それから、DJだけじゃなくて、ダンスやラップ、歌やグラフィックなどをやる人、やってみたい人とも繋がりたいです。自分達がまず楽しんで、その楽しさが周りに伝染して、感性とかやりたい事とか様々なものをあらゆる選択肢から選択できるような町になれるよう活動していきたいです。



別日の打ち合わせ風景(左：山崎さん 右：野口さん)

一発足した時期と経緯について教えてください

外崎) 発足は平成26年4月で5年目になります。みんな漁業者の主婦で、知り合って10年ほどしか経っていませんが、何度か会っているうちにそれぞれに漁業に対する思いがあるんだということが分かった。これから標津町や漁業が良くなるために自分たちでも何かできることはないかなと思うようになってきて、そこからまずは魚食普及みたいなことを始めてみようという話になり、自分たちで行動できる会をつくりたくて集まりました。

一メンバーは、何人ですか？

外崎) 現在11名です。当初から1名抜けてその後1名増えたので、最初から11名で活動しています。

一Amieの由来は何ですか？

外崎) Amieはフランス語で「女友達」という意味です。メンバーのひとりから提案があって、みんなで話し合っただけで決まりました。最初は「Amie」だけだったのが、「しべつ Amie」となりました。

07 しべつ Amie

標津の魚を身近な存在に。

一活動をしてよかった点は？

室谷) イベントごとに毎回必ず来てくれる子がひとりいるんです。必ず全種類の商品を買ってくれる。毎回、また来てくれたんだっていう喜びがあります。もちろん、大勢の人に来てもらえるのも嬉しいんですけど、その子に対しては特別な思い入れが生まれますよね。他では味わえないような感覚です。

一活動している中で課題はありますか？

外崎) 使いやすい施設が少ないことが課題かもしれません。今回は鮭節をつくっている知床標津マルワ食品の田村さんの施設を使わせてもらって、とても作業がしやすかったです。
小野瀬) 施設があるとみんなもっともっと使えると思うんですよね。
柴田) そんな中でも活動を続けることができています。嬉しそうですね。

一今後の展望と目標は？

柴田) とりあえず水キラリ参加(笑)
外崎) これからはイベント出店のお知らせをフェイ

一どのような活動をしていますか？

外崎) 町内や町外のお祭りなどのイベントに出店して、自分たちがつくったものを食べて知ってもらおうという活動がメインですね。魚を食べてもらいたいというのがみんなの思い。魚離れが結構多いし、魚を調理しない人もいます。加工したものだったら食べてくれるかも、と思って、鮭のコロッケや天カマ、春巻きなど、その場で食べやすいものを開発しました。今はこういう食べ方もあるよ！っていうことをイベント出店を通じて広めています。町外のイベントでは+αで標津のパンフレットを持っていき、まちの宣伝もしていますね。

一活動してきた中で、苦労したところは？

室谷) 苦労だと思ってやってないよね。
柴田) いつも明るくやってるよね。
室谷) だから何をやっても良い。すべてプラスを考えている。でも何かあった時は、こういう風にしたほうが良いよねなど、メンバーの中で話し合いがきている。
外崎) 活動の後は、反省会もします。

想いを言葉にする。



インタビュー時の様子

室谷) 活動経費も事務局(小野瀬)がしっかりと管理しているので(笑)

外崎) Amieのメンバーはサケ定置漁業者の主婦が多いんです。だから、自分たちが獲った鮭をおいしく食べてもらうにはどうしたら良いか、あと、昔あったおいしい鮭のコロッケを再現したいっていう目標もあったし、ただ真似をするのではなく、自分たちのオリジナルの商品開発をしてみたいという思いもあったので、活動の中で何をしたらよいかと、困ることはなかったです。



写真：後方左から外崎さん、稗貫さん、高橋さん、柴田さん、小野瀬さん、前方左から室谷さん、三上さん

一標津町の愛着や誇りに感じているところはありますか？

室谷) 何十年も前に札幌から初めて標津に来たんですけど、汽車で標津駅に着いた時にこんな良いところがあるんだって思ったのが印象に残ってます。海が見えたり、海の匂いがして空気も良く、こういう町があるんだあって、その時にここに住もうって思いましたね。

一次世代につなぎたい標津町の魅力はどんな所にありますか？

外崎) 私たちだけではなく、自ら楽しい活動をしている人たちが標津にはたくさんいて、そういう人たちこそが標津の魅力だと思うんです。楽しめそうなお店があったら、ぜひ参加してみたいです。例えば、この町のために何かやりたいと思っている人がいて、その人が私たちの活動を見て、何か楽しそうにやっていると、行動を起こしてくれたら嬉しい。そういうことが増えてくると、町に活気が出てきますよね。住んでいて何もなくて思う町かもしれないけど、何か活動して、日々を楽しく暮らすことが魅力に繋がっていくと思います。



鮭コロッケづくりの作業風景